

I 運営理念

安 全 ・ 安 心 ・ ゆとり

- 利用者の主体性と自主性を尊重し、人間としての尊厳に根ざした介護を進めます。
- 家族・地域社会との連携を密にし、あたたかい家庭的環境を築きます。
- 一 在宅、施設にかかわらず、介護を必要とする方々のかけがえのない命を尊重し、心が落ちついて生活できる介護サービスを提供します。
- 一 利用者、家族、職員がお互いに信頼関係を築き、気がかりなく、安心感に包まれた、心が落ちつく生活環境をつくります。
- 一 心にゆとりをもち、一人ひとりがその人らしく、おだやかな生活を送ることができる環境を整えます。

日本の65歳以上の高齢者数は、2025年に3,653万人、2043年には3,953万人となりピークを迎える予測となっています。また、75歳以上高齢者の全人口に占める割合も増加し、2060年には25%を超えると見込まれております。高齢化社会の進行に伴い65歳以上の高齢者が増加し、老老介護、認認介護、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯も増加していく見込みとなっています。

人口構造の推移状況は、2025年以降「後期高齢者の急増」から現役世代（生産年齢人口）の急減へと局面が変化します。今後、生産年齢人口はすべての地域で減少するものの、高齢人口は大都市とその郊外では増加する一方、地方では高齢者は増加せずに減少に転ずる地域が見られ、人口は全市区町村の約3割で約半数に減少するといわれています。

これらを背景に国は、全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正し令和6年4月に施行、こども・子育て支援の拡充及び、高齢者医療を全世代で公平に支えあうための高齢者医療制度の見直しのほか、医療・介護の連携及び医療・介護の提供体制等の基盤強化を行うこととしました。特に、介護保険関係では、介護情報基盤の整備、介護サービス事業者の財務状況等の見える化、介護サービス事業所等における生産性向上に資する取組に係る努力義務などが謳われており、これらに対応できる法人の体制づくりが求められています。

令和6年度の報酬改定では、全体でプラス1.59%と、これまでの中では高い改定率ではありましたが、長引くコロナ禍による利用控えや人件費、物価高騰を補うには十分な上げ幅ではありませんでした。さらに人材不足や運営コストの上昇が収益悪化に拍車をかけ、経営の安定には結びついておりません。

介護報酬改定では、介護現場における生産性向上や職場環境の整備が必須要件となってくることから、介護の現場において、業務改善を行うためにICTの導入や活用による業務の効率化が急務となっており、これら加算の取得に取り組むとともに、感染症対応を確立させ、物価高騰にも耐えることのできる経営体質の確立に努めていかなければなりません。

厚労省は2024年12月、次期(第10期)介護保険事業計画の見直し議論を始めました。85歳以上の人口増加や、生産年齢人口の減少が加速している現状の中で、介護に携わる人材確保が課題となる一方、地域の介護需要に応じたサービス確保が求められるとしています。そのため、引き続き、地域包括ケアシステムの推進、地域共生社会の実現、介護予防・健康づくりの推進、持続可能性の構築・介護人材確保等を図っていく必要があるとし検討を始めています。

私ども信達福祉社会が拠点とする福島、伊達地域は、高齢者人口の増加、生産年齢人口及び高齢者世帯数減少とともに、全国の趨勢より早く進行しております。これを踏まえた地域の要介護者・要支援者及び家族等の介護に対するニーズの把握に努め、介護需要に的確な対応がより求められております。

当法人は、これまで経営改善計画に基づいた事業計画により持続可能な経営への取り組み、将来を見据えた財務運営、本部制度の強化・充実、サービス向上による稼働率の確保、介護人材の確保に向けて処遇の改善、ICT化やロボットの導入による業務の効率化、職員の働きやすい環境改善による負担軽減に努めてきたところです。

令和7年度においては、これらの取り組みをさらに充実、強化しながら、法人の設立目的、意義、使命を再認識し、地域に寄り添い、地域の高齢者等にとっての心のよりどころとなる施設となっていかなければなりません。

具体的には法人経営体制の強化に向けて、長期的視点に立った経営、財務体制の確立、事務の効率化と施設間の連携強化と事務の統一、施設等の長寿命化に向けた施設・設備の適切な維持管理を進めながら、介護施設の原点といえる利用者の尊厳を大切にした入所者本位の質の高い介護に取り組む、また、働く者に対しては安心して働くことのできる職場環境の確保、処遇の改善・充実、人材の育成に向けた研修制度等の充実にも努めてまいります。さらには時代の要請である科学的介護への取り組み、ICT化やロボットの導入などによる生産性の向上にも取り組んでいく必要があります。

Ⅱ 経営改善の重点

令和7年度は第2次経営改善計画の2年目となります。持続可能な経営をめざし、将来を見据えた事業経営戦略づくり、人材の確保と育成、安定した財務管理、施設設備の長寿命化など、前年度に引き続き総合的な経営能力の向上を図ることとします。

〔重点事項〕

◇第2次経営改善計画の進行管理・見える化

経営改善計画目標達成のため、進捗状況の管理に努め共有化を図ります

◇人材の確保と育成

法人の中核を担う人材確保のための管理職及び中核的リーダーの育成に努めるとともに、中途採用者の活用及び介護助手、外国人労働者など多様な人材の確保に努めます

◇安定した経営の推進

地域が求める介護サービスの提供と各種加算取得に努めます

◇業務改善による職場環境の整備と施設設備の長寿命化の推進

業務の効率化、生産性向上を図るとともに、長期修繕計画に基づく施設設備の長寿命化を図ります

Ⅲ 事業計画

1 尊厳に根ざした介護とサービスの質の向上

(1) 地域から選ばれる施設づくり

利用者とその家族にとって利用しやすい施設づくりと、利用者の尊厳を守り、その人らしく生活できる介護サービス提供を行い、利用者の拡大を図ります

- ・利用者等から選んでもらえる利便性やサービス向上への取り組み
- ・利用者の尊厳を守り、利用者に接する態度、話し方の配慮
- ・居宅介護支援事業所及び地域包括支援センター等に積極的に情報を求め、様々な要望に応じることのできる対応力の向上

(2) 質の高いサービスの提供

専門職によるチームケアにより、利用者の持っている力を最大限発揮できるよう全面的に支援します

- ・介護、生活相談等、職種別の担当者会議の充実と機能強化
- ・認知症への的確な対応と科学的介護の取組ができる職員のスキルアップ
- ・法人内で統一した介護、利用者対応の実践

2 人材の確保と職員の成長を促す人材育成

(1) 人材確保と人事管理

職員の確保に長期的視野で取り組むとともに、高齢職員の活用及び介護助

- 手、外国人労働者の導入準備をすすめ、人材豊かな職場づくりを推進します
- ・職員待遇及び福利厚生の充実
- ・職員の定数管理に基づく配置計画及び採用活動
- ・高齢職員の活用及び介護助手、外国人労働者の導入準備

(2) 職員の成長を促す人材育成

職員の成長は、法人・施設の持続的発展に不可欠であり、職員研修、業務改善プロジェクト等の実施により、職員が自らの力量を高める組織づくりを進めます

- ・若手職員による業務改善提案プロジェクトの継続実施
- ・中途採用職員の経験の活用と定着
- ・ハラスメント対策及びメンタルヘルス対応支援

3 持続可能で未来志向の経営管理

(1) 持続可能な財務運営

経営成績の評価と財政状態を分析し、持続可能な経営に努めます

- ・月次分析による経営状況の把握と的確な経営予測の実施
- ・長期的視点に立った財政計画（経営シミュレーション）の作成
- ・長期修繕計画に基づく施設設備等の長寿命化

(2) 地域社会におけるつながりづくり

法人及び施設の存在を地域の方々に知っていただくため積極的に情報を発信し、また災害等発生時には地域と協力するなど、地域の一員としての地域づくりに取り組みます

- ・ホームページ、SNSによる情報発信の強化
- ・行政、地域諸団体との情報共有及び連携
- ・人口減少等地域の変貌を見据えた介護福祉ニーズへの対応準備

【法人本部の重点項目】

(1) 進捗管理

- ・経営改善計画、事業計画の進捗管理
- ・長期修繕計画及び施設設備更新計画の進捗管理

(2) 経営基盤の強化

- ・予算管理の徹底
- ・経費の削減と補助金、助成金の活用

(3) 人材の確保と育成

- ・採用の一元化及び研修計画の作成と実施
- ・ハラスメント対策、メンタルヘルス対策の実施

(4) 業務改善の実施

- ・ICTの活用促進と業務改善の実施
- ・業務改善プロジェクトの実施

令和7年度あつかし荘事業計画

1 全体

令和7年1月現在の高齢化率は、桑折町で37.8%、隣接する国見町で43.5%と非常に高い水準となっています。さらに社会構造の変化により、高齢者の単身世帯、高齢者のみで構成される世帯の割合も増加しています。

また、在宅で介護サービスを受けている方の4割が認知症を抱えている（桑折町調査）ことなどから、介護施設として求められる役割は多様化しています。

あつかし荘は、患者数が増加する認知症への対応力の向上を図るとともに、利用者や家族のニーズに寄り添い、利用者の尊厳を大切にしたい介護を進めます。

また、ICT・見守り支援システム等の効果的な活用による生産性向上の活動に取り組むことで、業務効率を高め職員の負担軽減を図るとともに、質の高い介護を進めます。

さらに協力医療機関との連携を強化し、医療的処置が必要な方からの相談体制を整え、地域から選ばれる施設となるよう努めます。

【目標数値】

目標数値		令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
平均稼働率	特別養護老人ホーム	98.4%	98.0%	99.0%
	ショートステイ	80.2%	78.4%	80.0%

2 特別養護老人ホーム

(1) 介護

利用者それぞれの「人生ノート」の内容や生活歴、意向等を踏まえ、その人らしい安心して生活できる居場所作りをしていきます。

ICT、見守り支援システム、記録ソフトの活用、業務の見直しなどの生産性向上の取り組みを行い、利用者に関わる時間を増やし、レクリエーションや個別ケア（外出、外食、ドライブなど）を計画的に進めます。

認知症介護研修や、認知症チーム推進ケアの取り組みを通して職員一人ひとりが認知症に対する対応力を高めていきます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
施設、居室内環境整備	施設内飾りつけ（4回） 居室内飾りつけ（不定期）	施設内飾りつけ（4回） 居室内飾りつけ（1回）	施設内飾りつけ（毎月） 居室内飾りつけ（4回）
認知症介護の知識習得	マニュアル学習 県認知症介護研修受講（2名）	マニュアルの学習 県認知症介護研修受講（3名） 認知症推進ワークシート作成	マニュアルの学習 県認知症介護研修受講（3名） 認知症推進ワークシートの評価と更新（毎月）
集団・個別レクリエーションの実施	3.2回/週	3.5回/週（5～10分）	3～4回/週（30分）

(2) 看護

利用者の日々の健康管理を充実させるとともに、感染症対策として手洗い研修などの基本的な施設内研修の継続、協力医療機関主催の研修への参加などにより、日々の標準予防策を徹底し、感染症の発生を防ぎます。また、感染症発生時には感染症BCPならびにマニュアルを基に迅速に対応し、施設内の感染拡大を防ぎます。

看取り介護では、人生ノートの更新を年2回以上行い、多職種でのカンファレンスの際に活用し、本人の意向に沿ったケアを行います。また、医師・家族との連携を密にして、本人が最期まで安心して過ごすことができるよう支援します。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
感染症予防対策の強化	感染症別マニュアルの見直し	感染症BCP訓練（年2回）	感染症BCP訓練（年2回） 感染症研修（年3回以上）
看取り介護における利用者・家族の意向の把握	人生ノートの完成（全利用者分）	人生ノートの活用	人生ノートの活用と更新（2月・8月と随時）

※「人生ノート」とは、日々の特養での暮らし（介護）や医療に関する本人の意向を定期的に把握・記録し多職種で共有できるようにするためのツールです。本人が大切にしていること、どこでどんな最期を迎えたいかなどを入所時に記入してもらい、定期的に確認し合いながら、その人らしい最期を迎えられるよう支援します。

(3) 生活相談

入所申込者の実態調査を早期に行い待機者を常時確保し、家族やケアマネ等に状況をこまめに確認し、空床が出た際に速やかに入所を進めます。

利用者家族へ細やかな情報を伝え、丁寧な対応で相談しやすい雰囲気作りを行い、入所者・家族が安心して利用できるように努めます。

また、多職種が連携して利用者の体調変化に速やかに対応し、早期の受診や治療で重症化を防ぎます。入院となった場合には、病院相談員と連携し退院に向けての体制を整えるとともに、併せて空床利用も進めます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
入所までの空床期間（平均）	9.8日	10日	8日以内
相談援助・苦情対応スキルの向上	事例検討・内部研修4回	事例検討・内部研修3回	事例検討・内部研修（毎月）

(4) 機能訓練

歩行訓練、関節可動域訓練などの個別リハビリや、集団体操などの集団リハビリを多職種協働のもと定期的に実施します。生活リハビリは介護士と意見交換して実施し、また、理学療法士等の指導・助言内容をグループ内で共有し実践することで、心身機能を維持し最適な生活ができるように支援します。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
リハビリの実施	個別（週1回） 集団（月1～2回）	個別（週1回） 集団（月1～2回）	個別（週1回） 集団（月4回）
多職種間の情報共有（ポジショニング等）	週1回	週1回	週1回

（5）栄養管理

四季を感じられる盛り付けや配膳方法を工夫し、食事をより楽しめるように支援します。

栄養ケアマネジメントを通し、利用者の状態の変化に速やかに対応し、個人に合った形態や量、療養食の提供など、適切な食事の提供を行い、低栄養の予防、健康を維持し経口からの摂取を継続できるようにします。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
季節の行事食	月1回	月1回以上	盛り付けや配膳工夫（月1回以上）
低栄養リスク者割合	11%	15%	15%以下

（6）総務管理

長期修繕計画に基づき、建物・設備の整備、必要備品の整備・修繕を行い、利用者が安全で快適に過ごせるように努めます。施設カルテの更新整備を継続し、適切な施設管理に努めます。

BCPに基づく避難・炊き出し訓練等実施するとともに、年2回の消防総合訓練、桑折町及び桑折町消防団との夜間消防訓練を通して地域関係団体と協力して有事に備えます。

リフレッシュ休暇の取得について、より取得しやすい方法を検討し、全員取得を継続します。また、見守り支援システムをさらに活用し業務の負担軽減を図り、働きやすい職場を作ります。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
設備機器等更新・ICT導入状況	ボイラー入替 受水槽入替 オイルタンク修繕 福祉車両整備 厨房機器入替 見守りセンサー 内蔵ベッド導入 11台	特殊浴槽入替	食器洗浄機 汚物処理機 センサーマット
BCPに基づく訓練の実施	訓練1回 研修1回	訓練2回 研修1回	訓練2回 研修1回
職員の心身のストレス軽減	連続休暇の取得率100% ストレスチェック 高ストレス者の割合 17.9%	連続休暇の取得率100% ストレスチェック 高ストレス者の割合 24.4%	連続休暇の取得率100% ストレスチェック 高ストレス者の割合 20%以下

3 ショートステイ

家族、ケアマネジャー、サービス事業所との連携を密にし、緊急時の受入れや医療的処置の必要な方、認知症状のある方の受入れに対し柔軟にサービスを提供することに努め、在宅生活が継続できるよう支援します。

利用中の様子をケアマネジャーにこまめに報告し、情報共有することで安定した利用につなげます。同時に新規利用者の獲得に努めます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
利用実人数	月平均24.9人	月平均24.2人	月平均26人
ケアマネへの空床情報・サービス内容についての情報提供	月2.5回	月3回	月3回
満足度調査の実施	家族対象 年1回 満足度100% 回収率 44% 居宅介護支援事業所対象 年1回	家族対象 年1回 満足度 85% 回収率 63% 居宅介護支援事業所対象 年1回 聞き取り19名	家族対象 年1回 満足度100% 回収率 70%以上 居宅介護支援事業所対象 年1回 聞き取り 随時

令和7年度梁川ホーム等事業計画

1 全体

伊達市は令和7年1月推計で高齢化率が38%を超え、介護の需要が高い地域です。高齢者のみ世帯・高齢者単身世帯および認知症高齢者の増加も進み、介護事業所に求められる役割も幅広くなっています。梁川ホームは地域や社会の状況に合わせて常に施設の在り方・あるべき姿を求めて柔軟に変化させ、福祉を支える事業所として必要なサービス提供に努めなければなりません。今年度は以下の3つを柱として取り組んでまいります。

利用者本位の介護…感染対策は継続しながらも、改めて介護の理念に立ち返り、利用者を尊重し家族から信頼されるサービスに努めます。

職員を大切にしたい職場づくり…良質な介護は人材あってこそという考えのもと、研修や自己研鑽を通してスキルアップができる環境、よりよいワークライフバランスが取れた働き方ができる職場となるように努めます。

持続可能な経営…安定した経営を続けていくため、将来を見越した各種設備、車両、ICT ツール等の導入・更新を進め、安定した施設基盤の整備と効率的で働きやすい環境づくりを行います。

【目標数値】

目標計画		令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
平均稼働率	特別養護老人ホーム	98.1%	98.3%	98.5%
	ショートステイ	76.3%	79.5%	78.0%
	デイサービスⅠ型	78.8%	80.0%	80.0%
	デイサービスⅡ型	51.7%	55.0%	59.0%
	ケアハウス	87.4%	87.8%	87.8%

2 特別養護老人ホーム

(1) 介護

利用者満足度の向上に向けて、ICTや介護テクノロジー（ケア記録システム・特殊浴槽・利用者見守りセンサー）の活用と認知症介護のスキル向上により、利用者の状況に合わせた質の高いケアを実施します。また、行事やフロア単位でのレクリエーション実施、個別の活動サポートを行い、楽しみのある生活を送っていただけるよう支援します。

利用者を支える職員が充実して働けるよう、連続休暇（5日間）取得、研修を通じた資質向上を図ります。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
事故件数	60件	33件	30件
計画的な全体行事の実施	年1回	年5回	月1回
内部研修会（介護技術・認知症介護）	1回	介護技術3回	介護技術2回 認知症介護2回
連続休暇取得（5日間）	—	—	取得率100%

（２）看護

I C Tを活用した効率的な作業を行いながら、主治医や他職種との情報共有・連携を密にして状態変化の早期発見と迅速な対応に努めます。また、効率化による業務改善を進めて研修参加などスキルアップにつなげます。

感染症の標準予防策の徹底を継続し、計画的に研修も行うことで「持ち込まない・拡げない」対策を行います。特に、発生時に速やかに対策を講ずることができるよう初動の訓練に力を入れます。

【目標数値】

目標計画	令和５年度実績	令和６年度見込	令和７年度目標
感染症（BCP）研修・訓練の実施	３回	４回	４回
係内スキルアップ研修	—	５名	係内全員受講

（３）生活相談

地域社会とつながる活動（ボランティア活動・移動売店等）を通して入所者の趣味・余暇活動の充実を図り楽しみや潤いのある生活が送れるように支援します。

I C Tの導入活用により効率的な事務に努めて、利用者支援の充実と家族への細やかな情報発信と密な連絡を行います。また、入所待機者の実態把握を定期的に行い、事前相談をより丁寧に行い速やかな入所手続きを進めます。

【目標数値】

目標計画	令和５年度実績	令和６年度見込	令和７年度目標
入所までの空床期間	平均１３．７日	平均１３．９日	平均１０日以内
ボランティア・売店の活用促進	実績なし	ボランティア４回 移動売店６回	ボランティア８回 <移動売店> 食料品毎週１回 衣料品毎月１回

（４）機能訓練

多職種によるアセスメントから身体状態の変化を予測して、適切な介護用品を選定し、正しく使用することにより褥瘡や骨折の予防に努めます。

食事に課題がある利用者について、シーティング（椅子・車いす上での良い姿勢をつくること）の実施と栄養管理・口腔管理との連携により誤嚥性肺炎の予防に努めます。

適時適切に福祉用具が活用できるよう、使用状況の把握と点検・修理の一元管理を行います。

【目標数値】

目標計画	令和５年度実績	令和６年度見込	令和７年度目標
誤嚥性肺炎の発症	２名	２名	０名
褥瘡の件数	０件	１件	０件
骨折事故の件数	４件	１件	０件

3 ショートステイ

利用者や家族の希望に沿った日程で受け入れを行い、希望者には衣類等を施設が準備することで、負担を軽減し気軽に泊まることが出来る環境を整えます。

ショートステイ利用時の様子について、ICT機器を活用して共有する事で、担当ケアマネジャーと家族がより分かりやすく把握できるようにします。また、各事業所との信頼関係の構築を働きかけることで、利用者の定着を図るとともに新規利用の促進にも取り組みます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
利用実人数（毎月）	49人	50人	52人
新規利用者受入れ	月3名	月3名	月4名
空き情報の発信	月2回	月2回	月2回

4 デイサービスセンター

感染症対策や介護技術の内部研修を定期的実施し、正しい知識と対応方法をもとに、利用者が引き続き安心・安全に利用できる環境を整えます。また、認知症予防等につながるアクティビティを提供するとともに、下肢筋力の維持を目的とした体操や拘縮予防運動を行い、在宅生活の継続を支援します。

ICT機器を活用し、ご家族、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等へ提供しているサービス内容や情報をわかりやすく伝えることで連携強化を働きかけます（デイ便り月1回、空き情報月1回発行）。これにより新規利用者獲得と継続利用の促進を図り、選ばれる事業所作りを目指します。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
外部研修参加、内部研修開催	年4回	年5回	年5回
介護予防体操の実施	不定期実施	毎日	毎日

5 ケアハウス広瀬

入居者が心身ともに健康に生活できるよう健康状態の把握に努めます。また、家族との連携を密にし、必要時にスムーズな受診ができるよう支援します。

多職種が連携し、精神的・身体的な不安や悩みを相談できる環境を整え、自立した生活が継続でき、毎月の行事では入居者同士の親睦を深め、メリハリのある生活が送れるように努めます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
外出する機会の提供	年3回	年4回	年4回
毎月の行事の充実	集合形式の行事は5割	集合形式で行事を行う。内容をホームページに掲載し情報発信を行う。	行事内容を毎月1度はホームページに掲載する。

6 梁川ホーム指定居宅介護支援事業所

利用者や家族からの相談に迅速かつ丁寧に対応し、信頼関係の構築に努めます。また、専門職として、アセスメント力向上と医療機関や各事業所との連携を意識し、利用者が住み慣れた地域で生活が送れるよう支援に努めます。

I C T機器を活用してペーパーレス化を推進し、業務の効率化を図ることで、質の高いケアマネジメントの提供に努めます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
請求件数	月139件	月151件	月180件
サービス内容の確認・振り返り	月4回	月4回	月4回
地域活動への参加	月1回	月1回	月1回

7 伊達市梁川地域包括支援センター

高齢者の生活上の困りごとに対し適切なサービスが包括的、効率的に提供されるよう支援します。また、認知症カフェを開催し気軽に話しができる場、相談ができる場の提供と地域住民の認知症に対する理解促進と偏見をなくすことで住み慣れた地域での生活が継続できるよう、包括ケアシステムの構築を進めていきます。

8050問題等の地域の課題に対しては地域ケア会議を開催し、梁川地区の地域支援連絡会で解決策を協議していきます。さらに高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、行政や各関係機関と連携を密にとり支援していきます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
相談目標（総合相談）	月190件	月195件	月195件
認知症カフェ開催	年4回	年4回	年6回
地域ケア会議	年13回	年12回	年12回
介護保険や認知症の理解促進、普及活動	出前講座、認知症サポーター養成講座の開催、地域活動の協力	出前講座、認知症サポーター養成講座の開催、地域活動の協力	出前講座、認知症サポーター養成講座の開催、地域活動の協力

令和7年度川俣ホーム事業計画

1 全体

川俣町では、令和元年より総人口および65歳以上の高齢人口が減少に転じ、要支援者は増加し要介護認定者数は減少傾向にあります。令和5年度の高齢化率は43.8%と年々上昇し、在宅介護者やサポートを担う生産年齢人口の減少により老々介護世帯や認知症高齢者・ひとり暮らしの割合が多くを占めています。介護予防で元気に暮らせる高齢者も多い反面、健康維持不安から医療的ケアや入所系サービスの需要も高まっています。そのため地域の医療機関・関係各事業所と連携を図り、利用者ニーズや家族介護の状況に応じた介護サービスを提供できるよう川俣ホーム全事業で取り組みます。

また、サービス事業所であることを念頭に職員の接遇意識・資質向上に努め、ICT活用のほか「人と人とのふれあい、家庭的な雰囲気」を重視し、「利用したい、利用して良かった」と地域で一番の満足を感じていただけるサービス事業所を目指します。

【目標数値】

目標計画		令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
平均稼働率	特別養護老人ホーム	98.4%	98.5%	98.6%
	ショートステイ	78.2%	72.9%	74.0%
	デイサービスⅠ型	82.5%	73.8%	75.0%
	デイサービスⅡ型	62.9%	54.0%	60.0%

2 特別養護老人ホーム

(1) 介護

「生活の場」としての安全面および衛生環境に気を配り、清潔・整理整頓に努めるとともに、季節や地域の行事・イベントを大切に利用者の喜びと安らぎにつなげていきます。また利用者との日常の関わりを増やし、言葉、表情、行動から思いに気づき、家族との情報共有も深め要望の実現に向け取り組みます。

認知症介護や口腔ケアについて、定期的な研修会および専門医からのアドバイスをもとに利用者一人ひとりに寄り添った支援をチームで取り組み、職員のスキルアップにつなげていきます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
季節を感じ快適に生活できる環境整備	居室(4回/年) 共用スペース (不定期)	居室(4回/年) 共用スペース (不定期)	居室(毎月) 共用スペース (4回/年)
行事・イベントの実施(家族参加含む)	8回/年 (利用者のみ)	8回/年 (家族参加2回)	10回/年 (家族参加3回)
研修会等による知識習得 (口腔衛生・認知症介護)	口腔ケア手法 (2回/年)	ケア手法・用品 (2回/年) 認知症介護ユマニチュード研修 実施	摂食嚥下、災害 時ケア(2回/年) サポーター養成 講座開催

(2) 看護

タブレット端末の活用や日課見直しによる業務効率化を進めるほか、利用者の状況を毎月協力医療機関と連携共有し、利用者の小さな変化を見逃さず、心身の不調を最小限に留められるよう取り組みます。さらには家族への健康状態・受診報告など細やかにお伝えするとともに、看取り期となられた利用者・家族の心の支えとなるように努めます。

感染症の発生防止のため最新情報と適切な対応（標準対策、消毒方法、防護服の着脱等）の共有を図り、発生時においても初動対策を徹底し蔓延防止に努めます。また、喀痰吸引や在宅酸素利用者、服薬管理など安全体制を整えます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
服薬に関する事故	0件	誤薬事故1件 (配薬違い)	0件
感染症予防・拡大防止	クラスター発生 0件	大規模クラスター (12月～2月)	クラスター発生 0件

(3) 生活相談

利用者・家族の精神的な拠りどころとなるよう、相談・問い合わせ等に迅速かつ誠意をもって対応するとともに、面会促進や行事案内について施設情報をメールやお便りで発信し、安心と協力体制を築きます。また、利用者と家族、地域とのつながりが継続するよう希望に応じた外出・外泊支援を主治医・各職種と調整します。

利用者の想いを反映したケアプラン策定、看取り介護や利用者の状態変化に伴うカンファレンスを多職種協働で継続して進めます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
入所までの空床期間（平均）	5.1日	9.2日 (1月現在)	9日以内
外出・外泊等の支援	0件	外出2件	外出・外泊 3件

(4) 機能訓練

利用者の身体機能が維持・向上し、日常生活の満足度が上がるように個別機能訓練の充実を図ります。リハビリ計画をもとに多職種と協議・連携し、利用者一人ひとりに適した訓練内容を実施、転倒などケガのリスク軽減に努めます。また、安全なリハビリ環境のもと利用者が意欲を持って参加する様子を、施設内および家族にも動画や写真で情報発信していきます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
多職種で訓練内容・方法を共有	不定期	不定期	1回／月
個別機能訓練の様子を伝達・情報発信	26名	15名	35名

(5) 栄養管理

利用者が健やかに過ごせるよう栄養ケア会議を通じ、日々の観察（咀嚼・嚥下、摂取量）と低栄養防止・改善に取り組むほか、季節の移り変わりを身近に感じることができる食に関する行事を実施していきます。

また、感染症発生や災害時に備えた非常食整備とともに、厨房調理員の技術および衛生管理の知識向上に努め、安全かつ利用者が満足される食事提供につなげていきます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
経口維持計画書作成	63%/65人	68%/65人	70%/65人
食に関する行事・イベントの実施	2回/年	5回/年	5回/年
嗜好調査・喫食満足度	—	—	75%以上

(6) 総務管理

持続可能な施設運営を図るため、適正な予算管理と効率的な業務見直しにより経費削減に努めるとともに、施設設備等の更新整備を計画的に進めます。

また、災害時においても、サービスを継続して提供できるよう、事業継続計画（BCP）に基づく災害別訓練・研修を行い、利用者も職員もともに安全・安心・ゆとりある職場環境づくりに努めます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
施設設備の整備	特殊浴槽等整備	介護備品等整備	送迎車両更新 電話設備更新
災害対応BCP訓練	机上訓練 1回	対応訓練 1回	机上訓練 1回 対応訓練 1回

3 ショートステイ

在宅生活が継続されるよう身体機能の低下予防（体操・運動レク）や認知症進行の予防（音楽・園芸レク）、生活リハビリを実施します。また、家族やケアマネジャーには利用者のショートでの様子やレクリエーションの取り組み経過を電話や手紙・広報紙等で報告し、在宅介護で活かして頂く情報を提供していきます。

近年、季節によって利用状況に差が出ることから、在宅介護で需要の多い歯科治療や理髪をショート利用中実施できるよう、家族やケアマネジャーと日程を相談し年間通した安定稼働につなげます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
利用実人数	35名/月	25名/月 (12月現在)	30名/月
レクリエーション・アクティビティ数（開催回数）	1回/週	2回/週	2回/週

4 デイサービス

高齢者が安心して住み慣れた地域で暮らせるよう、利用者の心身の状況と、暮らしの意向などを把握・理解し、利用者一人ひとりに応じた機能訓練や介護予防活動を行うほか、地域ケア会議、運営推進会議などを通じて得た地域状況を職員間で共有を図ります。

また、認知症介護、中重度者介護の専門的知識をより深めて職員の介護力向上を図り、地域のサロンへの参加、介護相談会開催など新規利用者獲得と利用促進に努めます。

サービス提供時間を有効に活用し、外出行事やアクティビティ活動の充実を図り利用者の心身のリフレッシュや楽しみ、達成感を得られるよう支援していきます。

【目標数値】

目標計画	令和5年度実績	令和6年度見込	令和7年度目標
利用実人数（Ⅰ・Ⅱ）	Ⅰ型40名／月 Ⅱ型24名／月	Ⅰ型36名／月 Ⅱ型17名／月 (12月現在)	Ⅰ型40名／月 Ⅱ型22名／月
外出行事の実施	2回／年	1回／年	2回／年
各地区のサロンに参加	—	—	1回／月
新規アクティビティ数	1～2個／月	1～2個／月	3個／月